

## 大学生の恋愛事情：日米比較研究

アディ・ギンゴールド

リゼット・マルチネス

カリフォルニア州立大学モンレーベイ校

### 要旨

恋愛関係の形はそれぞれの国の文化によって異なる。特に青少年から大人へと成長する若者世代にとっては重要である。また、個人によってもどのように恋愛関係を築き、どのように維持するかは違う。この論文は日本とアメリカの大学生がデートをどのように観ているのか、その違いがパートナーを見つけることにどのように影響しているのか。勉学とデートや恋愛とのバランスをどのようにとっているのか。そして恋愛関係を続けたいと思う要因には、どのようなものがあげられるかをアンケート調査を行い調べた。その結果、日本の学生は恋愛に対して、よりリベラルな考え方を持っていることが明らかになった。興味深い事に、恋愛の仕方は国によって違いが見られたが、両国共ステレオタイプとは違った回答が得られた。日本の学生もアメリカの学生も、勉学を恋愛より優先するが日本人は自分からはあまり相手には連絡しない傾向があるのに対しアメリカの学生はより頻繁に相手に連絡する傾向があることがわかった。

### はじめに

この論文では日本の大学生とアメリカの大学生が恋愛相手をどのように見つけ、彼らの関係をどのように維持するのかを比較する。また、個人の価値観と社会の価値観は恋愛関係を始まることにどのように影響しているのかを明らかにする。

さらに、どのようにパートナーを見つけることと、どのような関係が築かれるかの間に相関関係があるか。さらに、日米の恋愛の概念を紹介し、社会がその概念にどのように影響しているかを調べる。私達はこの研究において、両国で大学生の恋愛事情のステレオタイプと現実を比較したい。

## 1. 研究の重要性

1.1 リゼット：なぜ私がこの議題を選んだかというと、日本で留学していた時に取った授業の中で、日本社会における女性の役割について学び、その時初めて合コンについて知った。その時から、日米間で恋愛事情に対する認識に違いがある事に気づき、日本とアメリカ独自の恋愛事情についてもっと深く知りたいと思ったからである。

1.2 アディ：私の場合は、今国際恋愛をしており、日本で留学していた時に、文化の違いが私たちの関係にどう影響するかよく聞かれ、もっとこのことに認識を深めたかったからである。また、恋愛中に文化の違いによって生じる摩擦をできるだけ避けるため、日本とアメリカの恋愛事情の文化についてもっと深く知りたいと思ったからである。

## 2. 研究質問

1. 日本とアメリカの大学生が恋愛をする上で、それぞれどのような認識の違いがパートナー間にあるか。そして、その認識の違いがどのように彼らに影響しているか。
2. 日米大学生には恋愛と勉強に対する姿勢について、どのような違いがあるのか。
3. 恋愛関係を続けようとする要因は何か。

## 3. 研究背景

### 3.1 恋愛の価値観

外部と内部の価値観にも色々な見方がある。特に、外部の価値観には許される行為とするべきではない行為の基準やその価値観の実用的な応用がある。例えば、女性が性的に積極的であれば否定的に見られる。そして、内部の価値観は、個人の体験や日常行動による。例えば、セックスに興味がない女性も否定的で堅物の人とみなされる傾向にある。

### 3.2 恋愛の6種類

恋愛には3つの見解がある。それは相手に対する感情や欲求のあり方、お互いが相手に望み期待する事柄、そして長期的な恋愛関係なのか短期的な恋愛関係かである。

それらはさらに次の6つのタイプにわけられる。エロス（美への愛）、ルダス（遊びの愛）、ストルゲ（友愛的な愛）の三つのタイプから成る。さらに、エロスとルダスを混ぜると、熱狂的な愛・マニアになり、エロスとストルゲを合わせると献身的な

愛・アガペーとなり、ルダスとストルゲをあわせると実利的な愛・プラグマという複合型のタイプが生まれる。

### 3.3 日米における恋愛関係

どのように恋愛関係が始まるかというのは、アメリカと日本とで異なる。日本の場合、合コン、つまり異なる組織、サークルなどに属しグループでお見合いしたり、告白、つまり心の中に秘めている想いを相手に打ち明けて関係が始まる。アメリカの場合、一度だけの関係を持つフックアップや、同じ時期に二人以上の人とデートに行くカジュアルなデート等で関係が始まるようだ。

### 3.4 男女間の恋愛関係

真剣な交際に関しては日本もアメリカも同じで、家族に交際相手を紹介したり、同棲生活をしたり、恋人関係になることから始まる。日本人は「好き」という言葉をよく使う。例えば「あなたのことが好きです」などだ。アメリカ人は「愛している」という表現を使いますが、日本人が「愛している」という言葉を使うのは恋人にだけである。

### 3.5 社会的影響

日本には内、外という概念があり、よく引用されるのは「甘え」という概念である。それは周りの人に好かれて、人に依存したり、人の好意をあてにする気持ちのことだ。また、会社もそのような行動したりするも含まれる。アメリカの場合は、もし相手との関係が終わったとしても、面倒な煩わしい思い、未練、後悔もなく終われる淡泊な関係を好む。その反面、アメリカンドリームとして知られているように多くのアメリカ人は子供、パートナー、自分の家を守り常に幸せな生活を目標としている。

### 3.6 学校と恋愛

アンサリによると、日本の場合は、16～24歳の女性の46%は性的接触を好まないが、同い年の男性の25%も同じように考えているようだ。。しかし、現実では調査対象者の60.8%の人は恋愛関係に興味があるし、調査対象者の男性86.3%と女性89.4%はいつか結婚する考えだ。また交際していない人の37.6%は恋人が欲しくないということもわかっている。

アメリカの場合、フィッセルによると、学業と就職活動に集中するために、大学生は短期でカジュアルな恋愛を好んでいるとしている。StatisticBrainによると、現実には32.5%の大学生の恋愛関係は遠距離恋愛。USA Todayによると、大学4年生の25%は未経験者、そしてIndependent Women's Forumによると、大学4年生の3割は交際した経験が2回以下であることが分かった。

## 4. 研究

### 4.1 研究の対象

この調査には160人の大学生が参加した。日本人80人、内男子30人、女子50人と、アメリカ人80人、内男子30人、女子50人である。

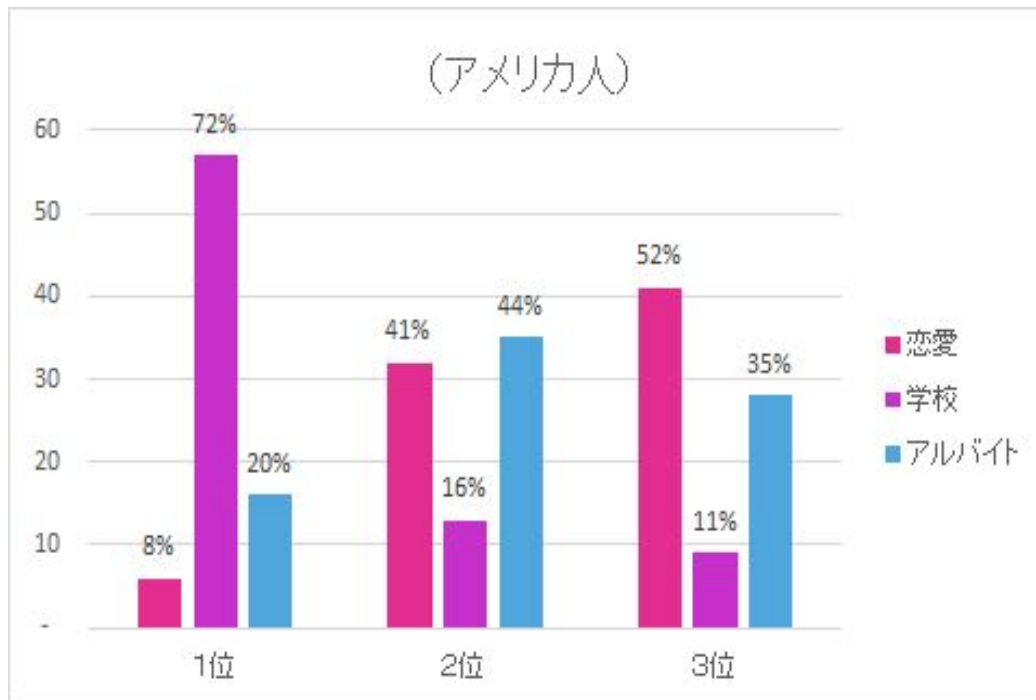
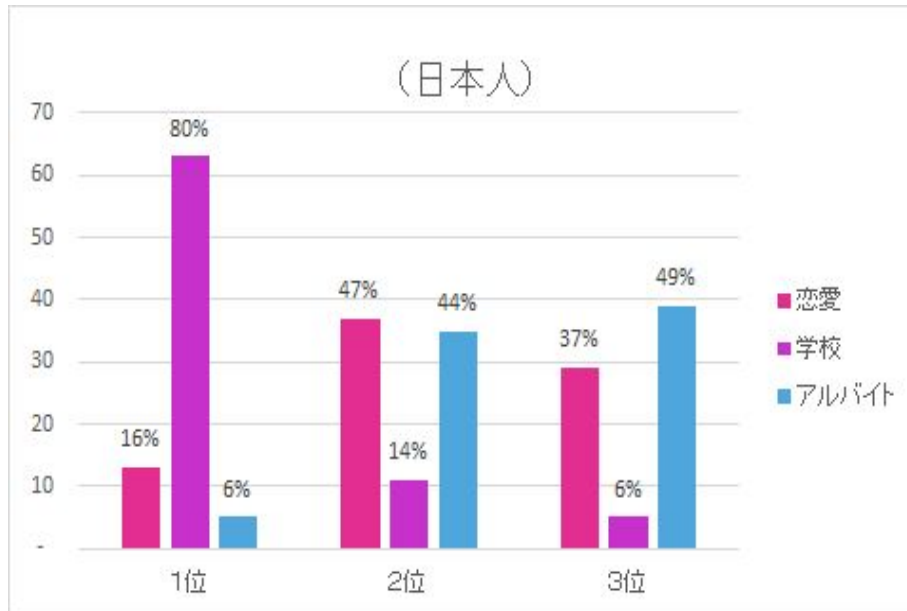
### 4.2 研究方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、グーグルフォームでデータを集めた。

## 5. 結果

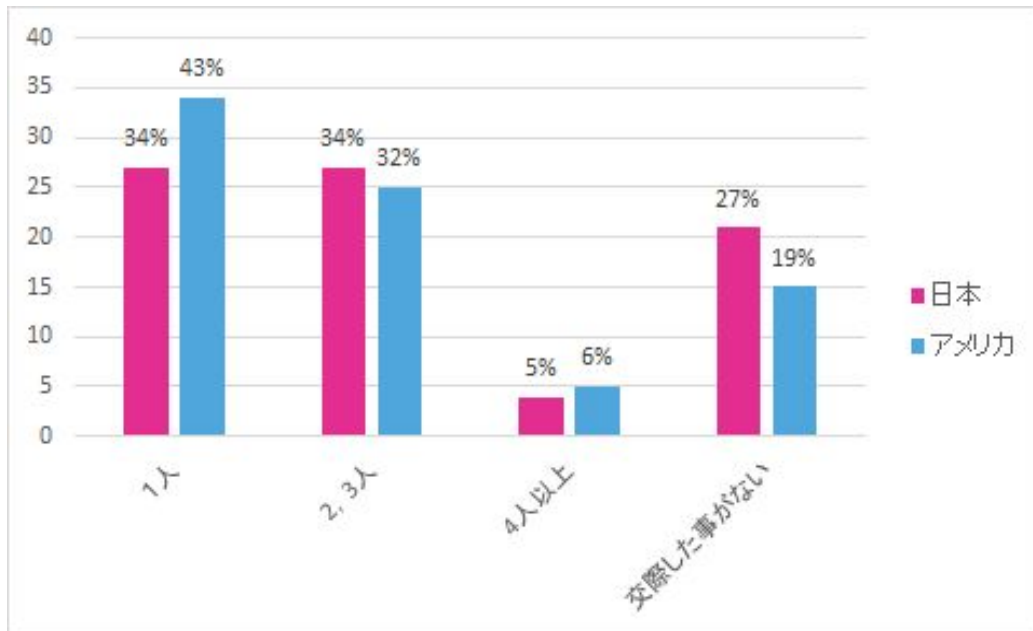
5.1 研究質問1：日本とアメリカの大学生が恋愛をする上で、それぞれどのような認識の違いがパートナー間にあるか。そして、その認識の違いがどのように彼らに影響しているか。

図1：恋愛・学校・アルバイトの重要性



まず、図1からわかるように、回答者に恋愛/学校/そしてアルバイトの重要性を評価した。日本人の学生もアメリカ人の学生も勉学を最も重要だと考えてるが、日本人はアルバイトよりも恋愛の方を、アメリカ人は恋愛よりもアルバイトの方を重要視しているようだ。

図2：大学在学中に、何人の人と交際したか。



そして、「大学在学中に、何人の人と交際したか」という質問に関しては、日本人もアメリカ人も交際した人数には大きな違いはなかったが、驚いたことに交際したことがないと答えた割合は日本人の方が多かった（図2参照）。

図3：一般的に大学生の恋愛はどれくらい続くと思うか。

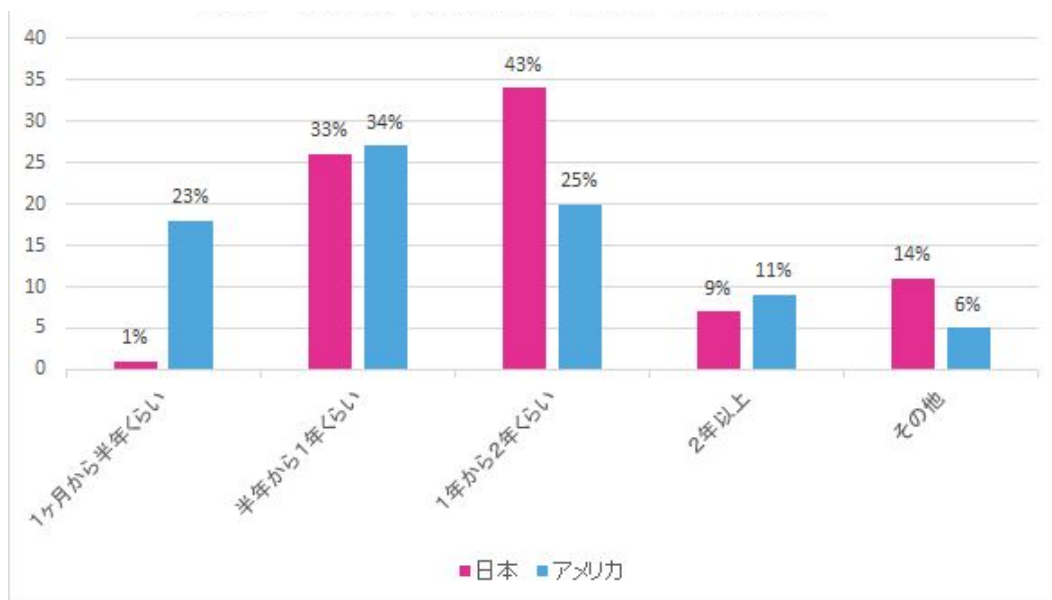
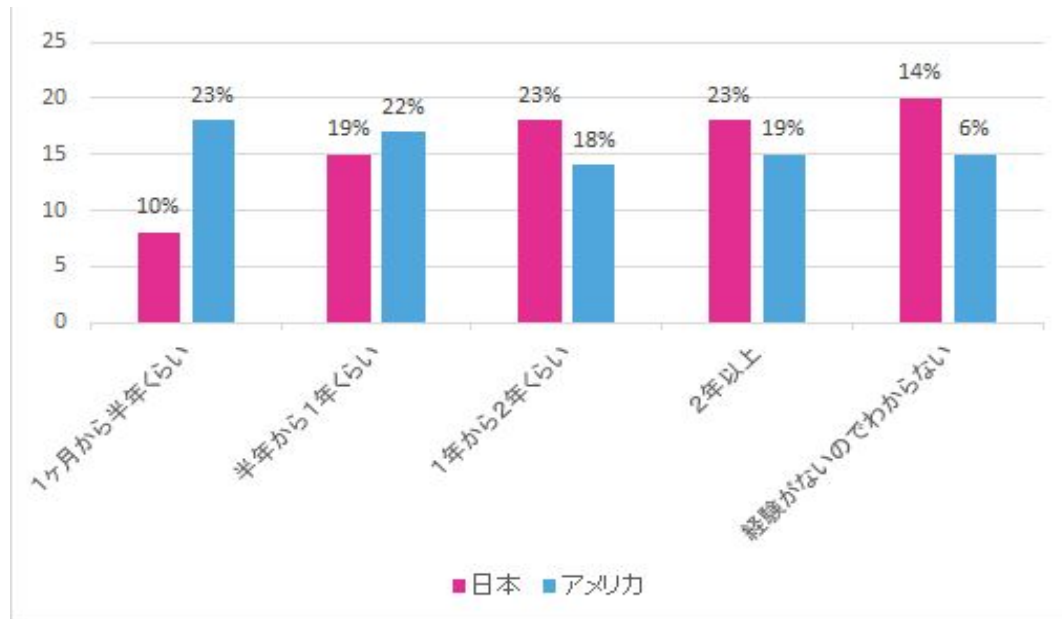


図3から分かるように、一般的に大学生の恋愛が続く期間と実際に恋愛関係がどれくらい続いたのかを質問したところ、日本人の大学生が長期的関係を好むのに対し、アメリカ人の大学生はより短期的な関係を好んでいることが分かりました。

図4：平均的にあなたの大学在学中の恋愛はどれくらい続いているか。



一般的に大学生の恋愛が続く期間と実際に恋愛関係がどれくらい続いたのかを質問したところ、日本人の大学生が長期的関係を好むのに対し、アメリカ人の大学生はより短期的な関係を好んでいることが分かった(図4参照)。

## 5.2 研究質問1のまとめ

両学生も恋愛より学業を優先するが、アメリカ人は日本人と比べて恋愛を優先していないようだ。恋愛関係が続く期間を自分たちの経験をもとに予想して答えると、アメリカ人は短期間の恋愛を、日本人は長期間な恋愛をしているようである。交際したことのない日本人の割合は全体の3分の1だったが、アメリカ人と大差はなかった。

5.3 研究質問2：日本人とアメリカ人の大学生の間で、恋愛と勉強に対する姿勢について、どのような違いがあるのか。

図5：一般的に、恋人に週に何回くらい会うべきだと思うか。

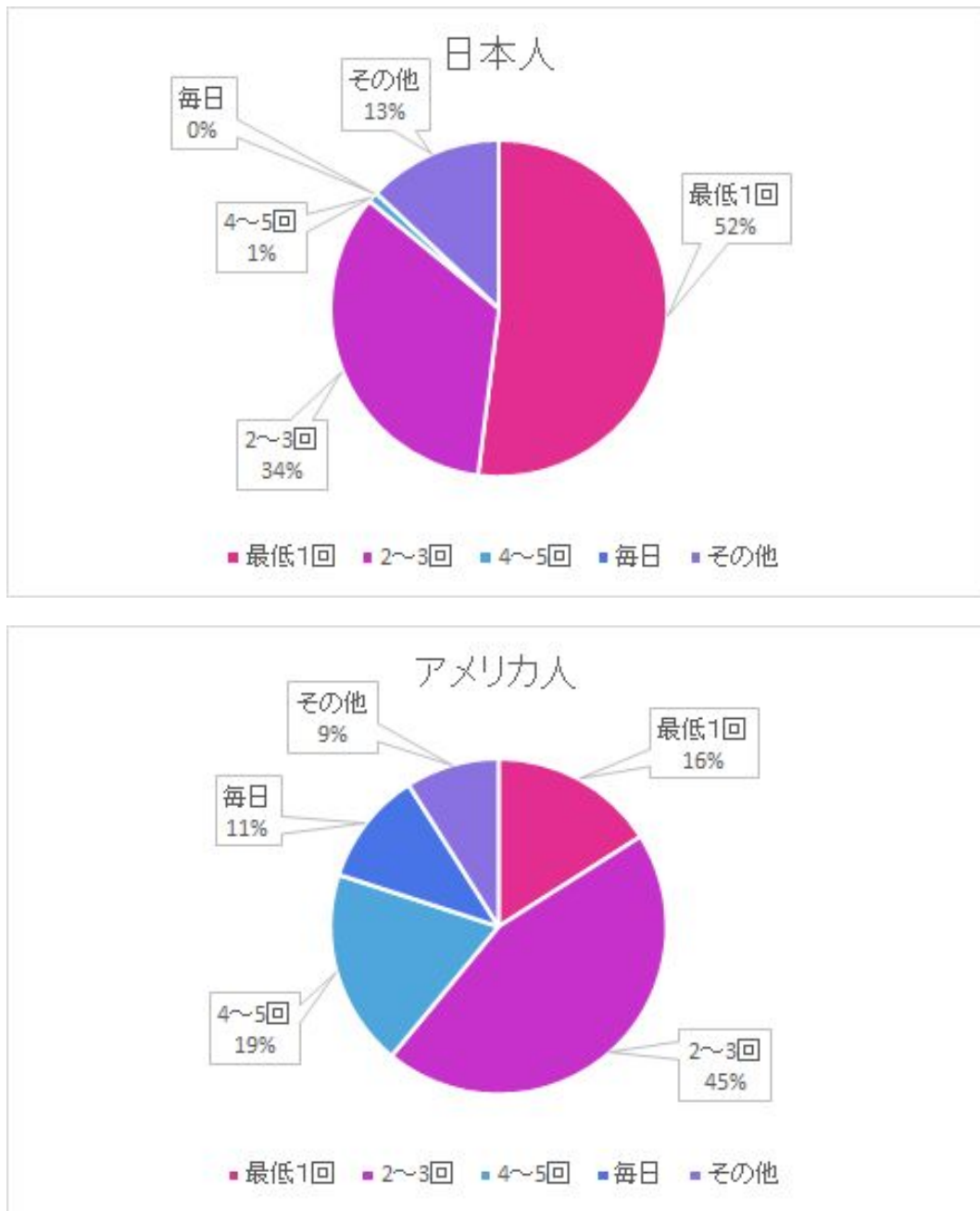
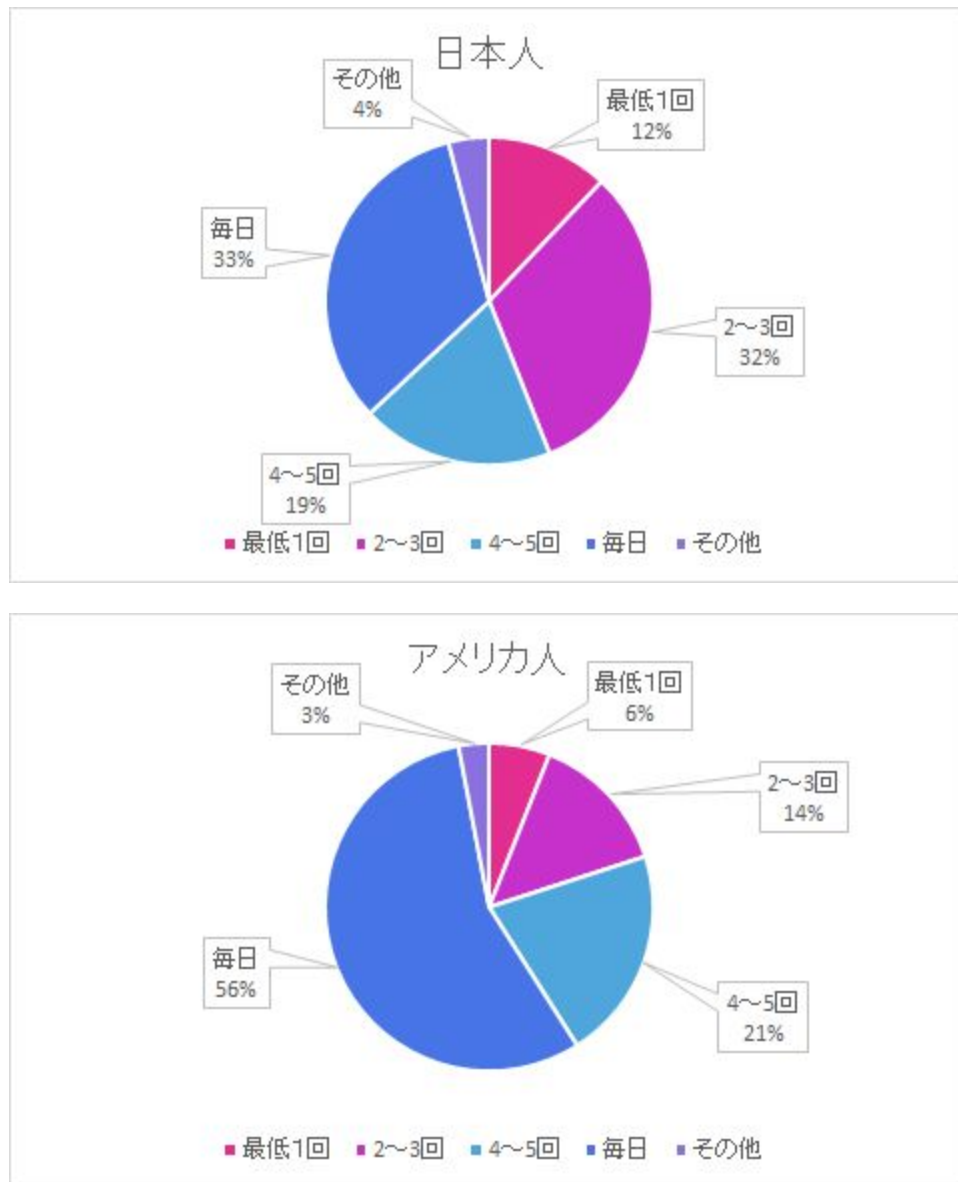


図5から分かるように、「一般的に、恋人に週に何回くらい会うべきだと思うか」という質問に対して、「最低1回」と答えた日本人が約5割に対し、アメリカ人の約5割が「2~3回」と答え、アメリカ人の方が恋人に会うべきだと思う回数が多かった。



図6：週に何回くらい恋人に連絡するべきだと思うか。



「週に何回くらい恋人に連絡するべきだと思うか」という質問には、アメリカ人は日本人より毎日恋人に連絡するべきだという割合が高かった(図6参照)。

図7：どのタイミングで相手に告白をするか。

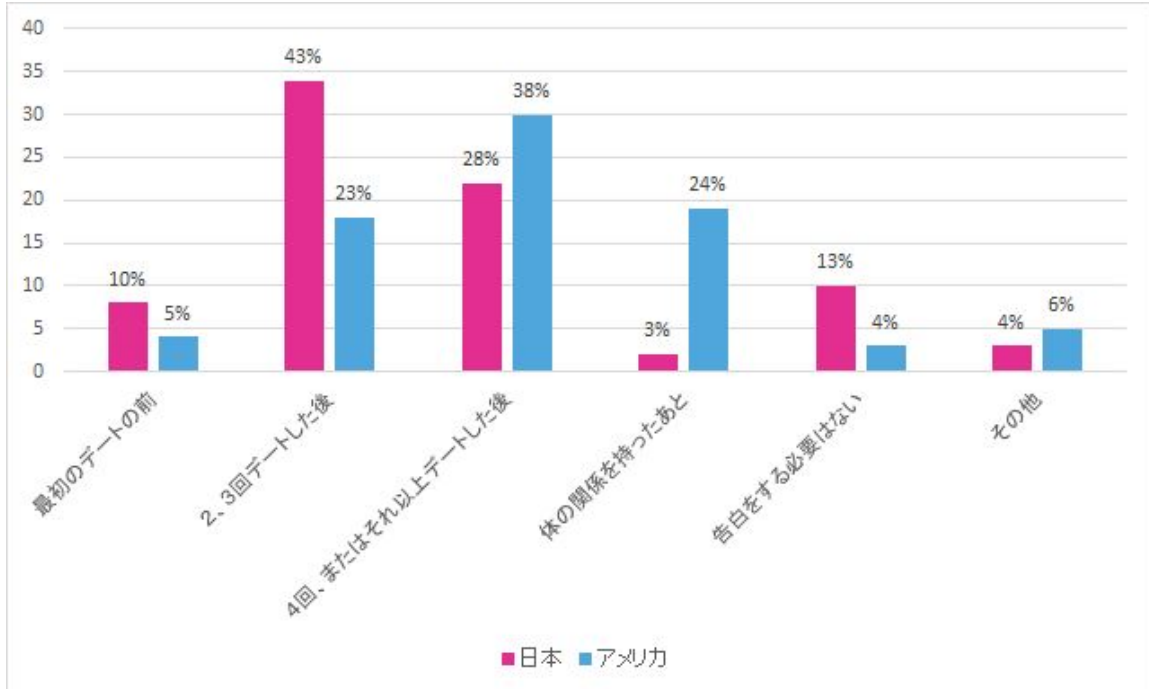
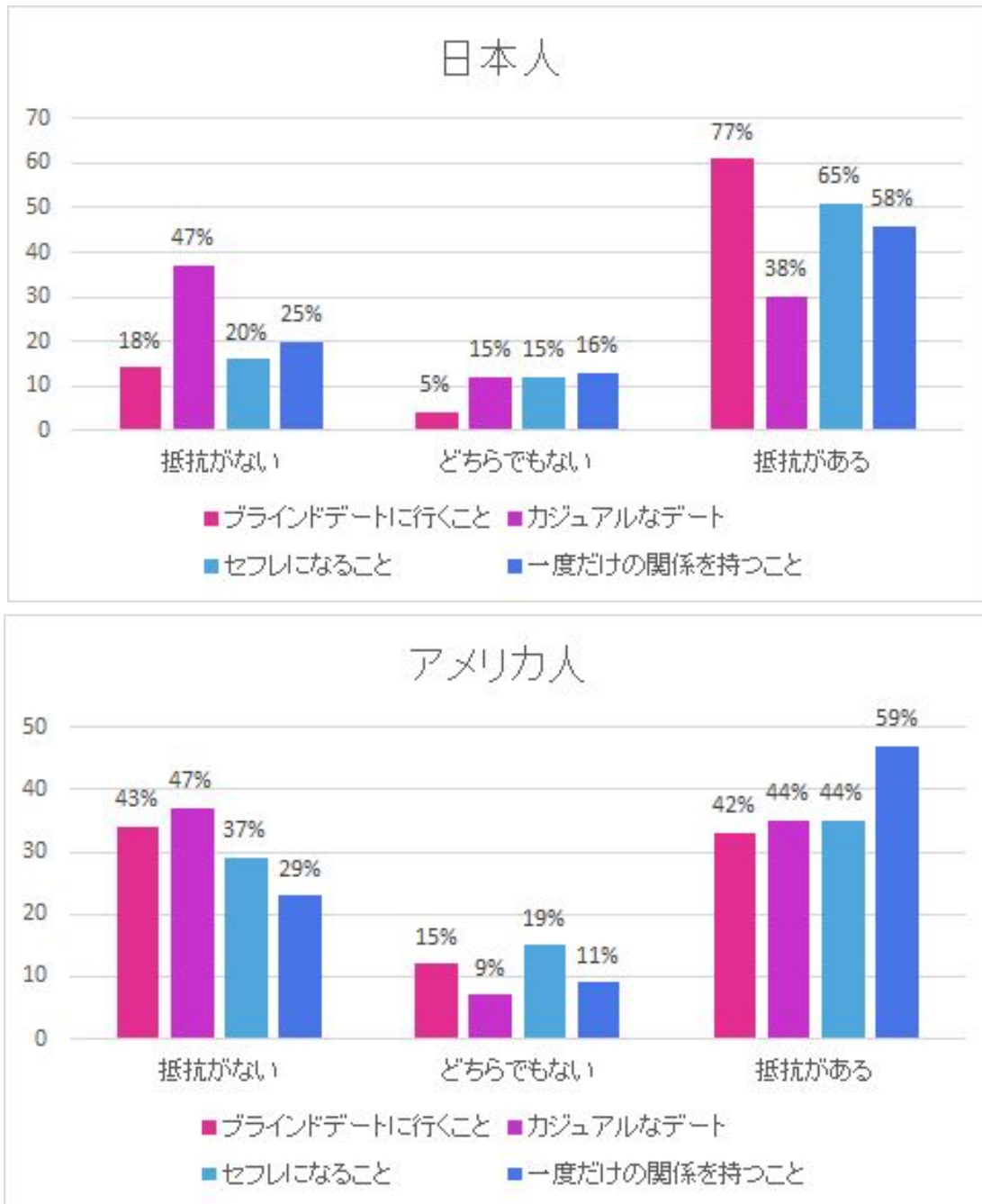


図7から分かるように、「どのタイミングで相手に告白をしますか。」という質問に関しては、日本人の方が早めに（2～3回デートした後）告白する傾向にある。

図8：下記のデートのタイプにどのくらい抵抗があるか。



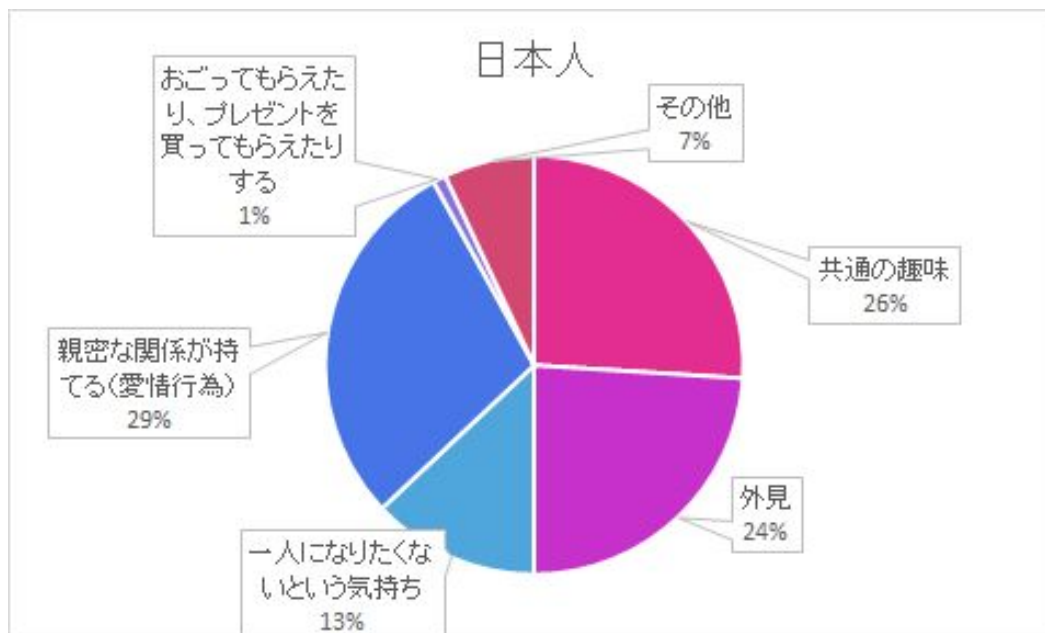
最後に、回答者にブラインドデートに行くこと、カジュアルなデート、セフレになること、一度だけの関係を持つことに対して、それぞれどのくらい抵抗があるのかを評価した。日本人に比べ、アメリカ人はこれらの概念に抵抗がないと答えた人が多かった(図8参照)。

#### 5.4 研究質問2のまとめ

アメリカ人の方が恋人に、より頻繁に会うべきだと答えた。さらに、アメリカ人の方が交際相手とより多く連絡をとる傾向にある。日本人はアメリカ人と比べてやや早い段階での告白を好むが、先行文献で述べられている告白の段階よりも遅いことが分かった。告白は日本の価値観であるが、告白は必要ないと答えた日本人の学生はアメリカ人より多かった。

#### 5.5 研究質問3：恋愛関係を維持しようとする要因は何か。

図9：恋愛関係を維持しようとする要因。



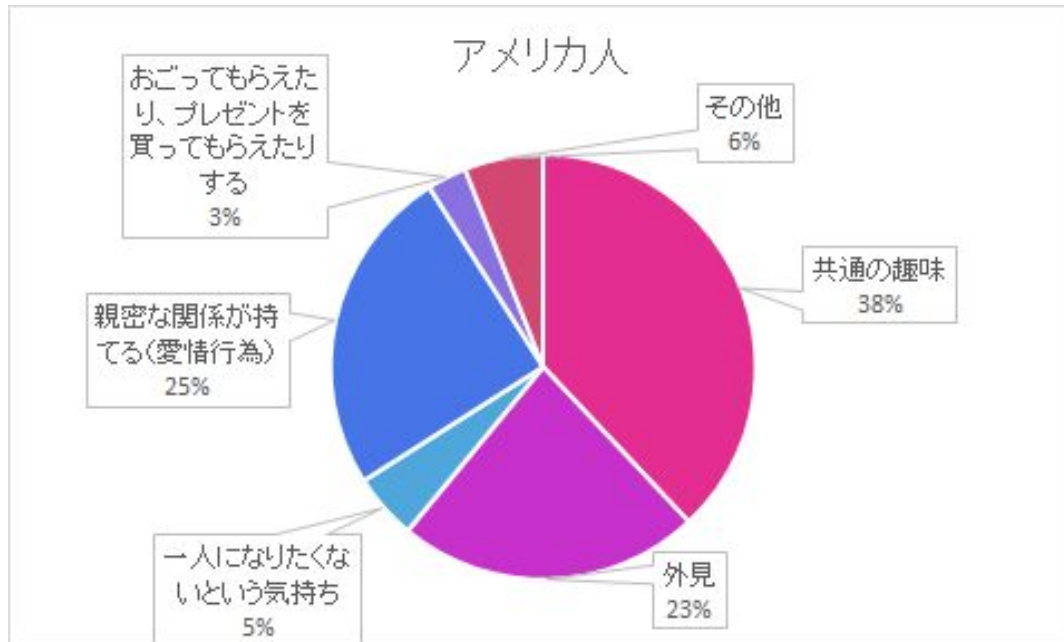
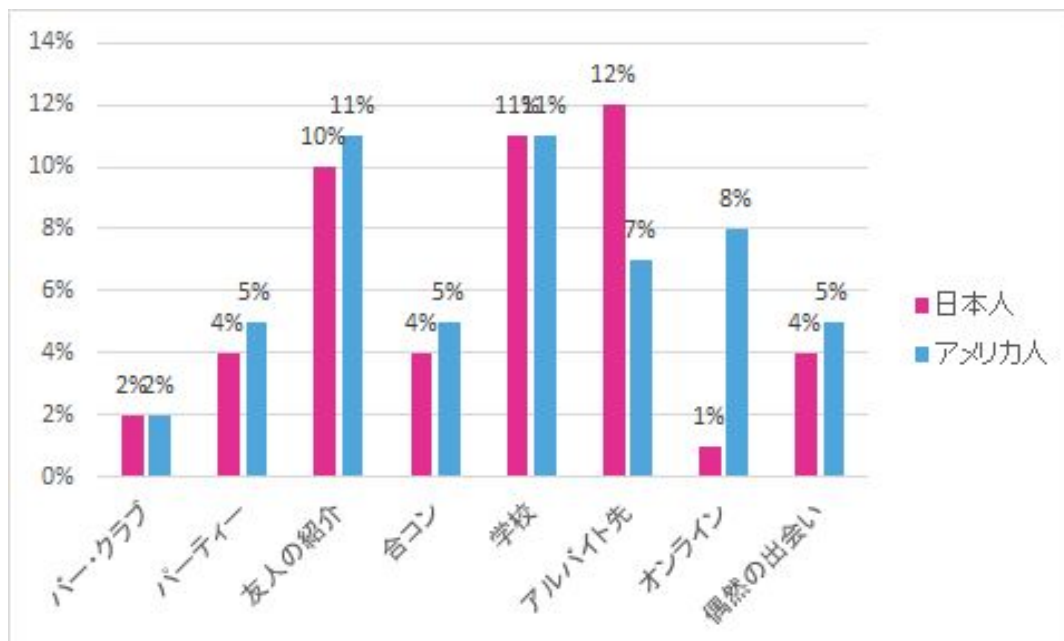


図9から分かるように、「恋愛関係を維持しようとする要因は何か」という質問に対して、一般論に反して、真剣な交際を続けるために必要なこととして、日本人の最も回答数が多かった要因は「親密な関係」だったのに対し、アメリカ人は「共通の趣味」を挙げた。

図10：真剣に付き合えるパートナーを見つけられる場所



回答者に真剣に付き合えるパートナーを見つけられる場所はどこかについて回答した。アメリカ人は様々な場所で恋愛関係が始まる可能性があるかと答えたが、日本人は特にアルバイト先や学校でその可能性があると思っているようだ。しかし、日本人はオンラインでの出会いに対して非常に否定的である(図10参照)。

## 5.6 研究質問3のまとめ

両学生とも共通の趣味、外見、そして親密な関係を恋愛関係を維持するために必要な要因として考えているようだが、日本人はアメリカ人より、外見と親密な関係を重要視した。どちらの学生も真剣に付き合える交際相手を学校、または友人を通じて知り合うことを好むが、日本人はアルバイト先を一番出会う可能性が高い場所であると答えた。さらに、日本人はオンラインデートやブラインドデートに抵抗があるのに対し、アメリカ人はあまり同僚と付き合わないとは回答した。

## 6. 結論と考察

研究結果より、日米の大学生間において、付き合い始めるときに考える目標の違いが見られました。アメリカ人はパートナーを見つけることに焦点を置くのに対し、日本人は長期的な関係を持つことに焦点を置いているようでした。また、日本人は出会いに対して保守的であるようだ。アンケートの結果より、日本人はオンラインやカジュアルデートに対して否定的な反応を示し、告白のタイミングがアメリカ人より早い傾向があることが分かった。さらに、日本人は恋愛関係を維持する理由として親密な関係を選んだ。このことより、日本人は長期的かつ真剣な交際をしたいと考えているのかもしれない。

## 7. 研究の限界点と将来の研究課題

Lack of corresponding words in either language  
 Translation of specific culturally well-known concepts  
 Degrees of severity  
 Like/love, committed relationship/ready for marriage  
 Geographic location

Majority of Americans are in California, whereas Japanese came from a wider variety of regions

Many Japanese participants had experience abroad, which may have influenced their view on this topic

気づいた難しい点には、英語と日本語で、相互に対応する言葉がなく、特によく知られた文化の概念をはっきり翻訳することが出来なかった。例えば、「好き」と「愛している」や「真剣な関係」と「結婚への意識」の認識が文化によって違う。そして、日本人に関しては日本全国の学生の回答者が得られたが、アメリカ人はカリフォルニア州の学生がほとんどで、多くの日本人回答者は海外経験があり、それが彼らの考え方に影響を及ぼしているかもしれないと思った。今度は、海外経験がある大学生の恋愛事情と結婚につながる付き合いに対する意見について研究を行いたいと思う。

## 参考文献

- Bogle, K. (2008). *Hooking up sex, dating, and relationships on campus*. New York: New York University Press.
- Turner, J. (2003). *Dating and Sexuality in America : A Reference Handbook*. Santa Barbara, Calif: ABC-CLIO.
- Hatfield, E. , & Rapson, R. (1996). *Love and Sex : Cross-cultural Perspectives*. Boston: Allyn and Bacon. “Courtship, Japanese-Style | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.
- “Cross-Cultural Reliability and Validity of the Revised Conflict Tactics Scales: A Study of University Student Dating Couples in 17 Nations | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.
- “Dating and Sexuality in America : A Reference Handbook | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.
- “Dating, Mating, and Marriage | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.
- “Hooking Up : Sex, Dating, and Relationships on Campus | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.
- Ishida, Hiroshi. “The Transition to Adulthood among Japanese Youths: Understanding Courtship in Japan.” *Annals of the American Academy of Political & Social Science* 646, no. 1 (March 2013): 86–106. doi:10.1177/0002716212465589.
- Kito, Mie. “Self-Disclosure in Romantic Relationships and Friendships Among American and Japanese College Students.” *The Journal of Social Psychology* 145, no. 2 (April 1, 2005): 127–40. doi:10.3200/SOCP.145.2.127-140.
- Lesure-Lester, G. Evelyn. “Dating Competence, Social Assertion and Social Anxiety among College Students.” *College Student Journal* 35, no. 2 (June 1, 2001): 317.
- Letcher, Amber1 amber.letcher@sdsstate.edu, and Jasmin2 Carmona. “Friends with Benefits: Dating Practices of Rural High School and College Students.” *Journal of Community Health* 40, no. 3 (June 2015): 522–29. doi:10.1007/s10900-014-9966-z.
- “You Are Cordially Invited to Weddings : Dating & Love Customs of Cultures Worldwide, Including Royalty | Monterey Bay.” Accessed October 14, 2015.  
<http://xerxes.calstate.edu/monterey/books/record?id=49303>.